

氏名： 笠野 実希

実施国： マラウイ

調査研究

活動名称

JICA 草の根プロジェクト「耕畜連携システムによる食料の生産向上と安定的確保」における調査・研究

(1) 計画通りに実施されましたか？運営面・経理面での変更点はありましたか？

プロジェクト実施に関して、ほぼ計画通り実施できた。予定とは異なる場所ではあるが、現地の農業研究所に訪問する等、予想以上に収穫できたといえる。今後もこの研究所とも協力しながら、「キャッサバ」「サツマイモ」等の研究をすすめる。なお、経理面については、帯広畜産大学が運営している「草の根プロジェクト」より車両を借り上げることができ、予算の節減をすることができた。

(2) 実施の結果（良かった点、反省点を含めて）

今回の調査は、マラウイブンブエ地区の農村 23 世帯に対して行った。1 世帯につき、1～2 時間もの時間をかけて調査を行ったのだが、村の人々は協力的対応してくれた。得られたデータから、農民の生活状態がよく理解できるようになったが、今回の調査をどのように村人へフィードバックするか、今後の課題になるだろう。また、今回の調査項目は主に、「家族構成」・「収入と支出」・「食事の内容」などを中心に行ったが、これで十分だったかどうか不明である。村落調査をする場合、文化人類学・社会科学・人文科学など、私の専門以外の知識が必要になってくると感じた。調査結果報告書は別途添付するが、同時に「草の根プロジェクト」とも共有し、意見交換を行い、今後マラウイで実施するプロジェクトに役立てたい。なお、今回プロジェクトで得られた成果を、2011 年 5 月に開催される『日本アフリカ学会大 48 回学術大会』にて、ポスター発表する予定である。



訪問先の家族写真

(3) 異国の参加者同士または本人が相互理解を深めたと確信できた場面は？
または実施事業に対する一般の反響は？「協力活動」「調査研究」

調査を行っていくなかで、農村の人々は協力的であったが、当然のことながら「なぜこのような質問をするのか？私達に何をしてくれるのか？」と疑問の思った人々もいた。私自身、調査とは相手を知ること・相手側の課題発掘やその解決の糸口を見つけることと考えており、そのことを村の人に話して、理解してもらうよう努めた。些細なことでも聞くようにし、主に「村人は何を欲しているのか（お金以外）」、村人のニーズを探るようにした。最初の質問で、家族構成や収入と支出など、機械的な質問をしている際は、村人に疲労感や質問に対する煩わしさが感じ取れたが、最後のアンケート調査で、「あなたの生活の何を改善したい？」など、相手の意見を求める質問では、皆よく話をしてくれたように感じる。しかし、今回行った調査の意味を村人が本当に理解するには、今後の活動が重要になってくるだろう。一方、一般の反響は必ずしも良いとは言えるものではない。というよりも、調査はすぐに相手側の利益に反映するものではない。「調査なんて誰にでもできる。」と厳しい見方をする人もいるので、そういった意見も真摯に受け止め、今後の研究活動で成果を出していくつもりである。

(4) 社会への効果（実施事業がどのように社会に活かせるか、活かしたか）

現在私は、地域の中学校へ出前講座などを行っている。マラウイのOB 隊員ということもあり、マラウイでの活動を紹介しているのだが、その中で今回の調査内容も紹介したい。特に途上国の人々が何を食べているか、どのような生活をしているかなどを紹介することで、日本以外の国に目を向けてもらいたいと考えている。マラウイの食料は、ほとんど自給で賄っていることから、日本の食料自給率について考えるきっかけになるだろう。

。